

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立多治見北高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和4年2月
- 3 開催場所 書面開催
- 4 参加者

会長	水野 知久	東濃子ども相談センター所長
副会長	小林 雄一	愛知工業大学教授
委員	池田 恵子	地域住民、元PTA役員
	近藤 重利	地域住民、自営業者
学校側	柴田 真奈美	多治見市職員、元PTA役員
	渡邊 雅子	PTA副会長
	小栗 英幸	校長
	後藤 憲人	事務部長
	伊左治 錦司	教頭
	二村 文敏	教頭
	市川 学	教務主任
	岩三 大介	生徒指導主事
	前川 泰信	進路指導主事

5 会議の概要（協議事項）

(1) 年間反省（学校からの資料による説明と意見聴取）

① 教務に関すること

意見1：コロナ禍も2年目となり、休校時のオンライン授業への対応、ICTの活用や行事の実施方法の変更など、その都度適切に対応できていた。また、ICTの活用は、対面による授業も大きく変化させていることが分かった。個人へのタブレット配付、持ち帰り指導も迅速に行われ、家庭で有効に活用できていたようだ。今後、感染状況にもよるが、登校できない不安（とくに学習に対する不安）を軽減させる支援をお願いしたい。

意見2：ICTを活用した教育に関しては、教員の自己研鑽により、機器の使用に関するトラブルは減っているようだが、導入初期の状態であり、次々と新しい手法も出てきている。生徒に苦手意識を持たせないようにすることやコミュニケーション能力の成長を望めるよう工夫することも必要だ。

② 生徒指導に関すること

意見1：新型コロナウイルス感染症への対応に追われた一年、収まるかと思うと次の波がやってくるといった出口の見えない中、生徒や保護者の不安を軽減するべく教員の苦労も大きかったのではないかと。

意見2：最近、街中でスラックスを着用している女子生徒を見かけることが増えてきた。本校でもスラックス着用を望んでいる生徒は少なくないと思う。セーラー服が壁

になっているのではないか。地元の公立中学でも多様化に対応するために、来年度から男女ともブレザータイプに変更されると聞いた。伝統ある制服ということは理解しているが、時代に合った変化も必要ではないか。

意見3：自己有用感の育成には、様々な活動が自発的に行われることが重要だ。またボランティアなど行っている最中に地域住民等から「ありがとう」など声をかけられることが達成感につながるのではないか。

意見4：悩みをもつ生徒が急増していることに関しては、学校だけでなく、卒業生、有識者等に、気軽に相談できるような方策を望む。

意見5：成年年齢が18歳に引き下げられることにより、クレジットカードの契約に関することなど様々なトラブルが在学中にもおこりうるのではないかと危惧している。啓発活動をお願いしたい。

③ 進路指導に関すること

意見1：コロナの影響で、名大や東大の見学会が中止になったことは残念であったが、卒業生の話を聞く機会や、受験体験記など、有意義な時間や資料が提供されたことに感謝している。

意見2：各方面で活躍する卒業生の存在は本校のメリットの一つだ。保護者や教員以外の大人から話を聞ける機会があることは、高校生が将来を考えるうえで気づいていなかった関心に目覚めるきっかけとなり、可能性を広げてくれる。入学してくる生徒の目標は大学進学でも、そこをゴールとしない指導や取組をお願いしたい。

意見3：著名な卒業生にオンラインで講演を依頼するなど、同窓会を通じて協力を依頼してはどうか。

(2) スクール・ポリシーの承認

第2回学校運営協議会で出された意見に基づいて改定された原案が、全委員に承認された。

6 会議のまとめ

第3回学校運営協議会は、コロナの急激な感染拡大により書面開催とした。各分掌による年間反省では、コロナ禍におけるICT対応に関して賛同を得られた。スクール・ポリシーについては、前回の会議で出た、自主・自律を前面に押し出し中学生にもわかりやすい表現で訴えるもの、という意見に基づいて改定した原案が承認された。